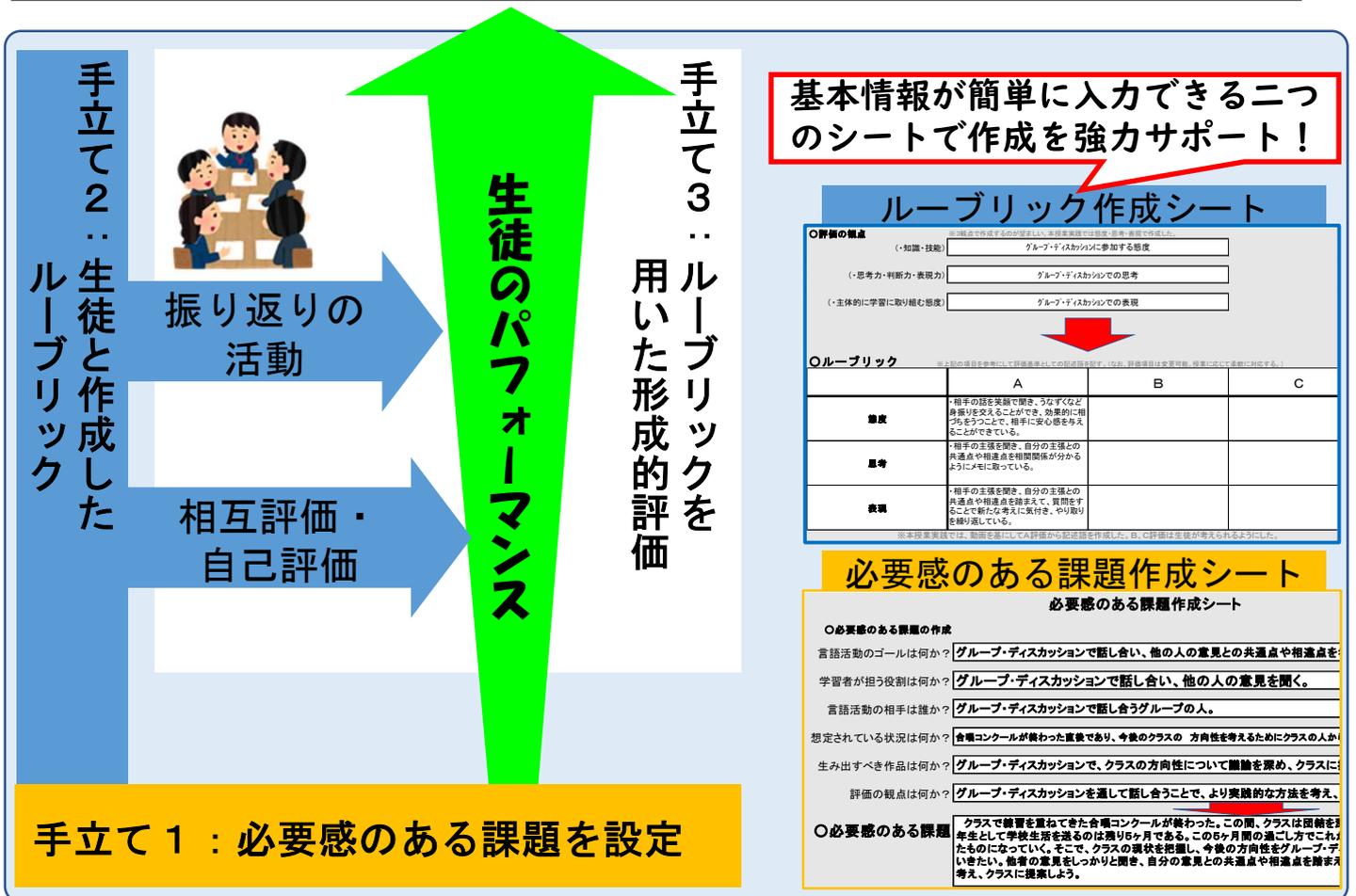


中学校国語科における
聞くことの力を高めるための指導の工夫
ー必要感のある課題の設定と、
生徒と作成したルーブリックを用いた形成的評価を通してー

○ 研究構想図

長期研修員 松元 崇敏

聞くことの力を高めた生徒



生徒の聞く姿（パフォーマンス）を見取り、
形成的評価を重視した指導を行う！！

国や県の課題
依然として読むことの指導
に偏った傾向がある。

生徒の実態
聞くことの力が十分
に身に付いていない。

教師の願い
聞くことの力を高める
ための指導がしたい。

聞くことの指導の課題

- 音声言語 …… 記録を残しづらい
- 生徒の内面 …… 内面を表出させないといけない

指導が
難しい！

手立て1：必要感のある課題の設定

クラスで練習を重ねてきた合唱コンクールが終わった。この間、クラスは団結を深めることができたろうか。1年生として学校生活を送るのは残り5ヶ月である。この5ヶ月間の過ごし方でこれからの学校生活が更に充実したものになっていく。そこで、クラスの現状を把握し、今後の方向性をグループ・ディスカッションを通して考えていきたい。他者の意見をしっかりと聞き、自分の意見との共通点や相違点を踏まえて、今後のクラスの方向性を考え、クラスに提案しよう。

手立て2：生徒と作成したルーブリック

	A	B	C
記述語	挙手をして、相手の意見に応答をし、自分の意見や質問を発言することができる。	挙手をして、自分の意見を発言することができる。	挙手をして、自分の意見を発言することができない。

手立て3：ルーブリックを用いた形成的評価

○1回目の相互評価・自己評価 (No.4への評価)

評価者	評価	評価の根拠
No.1	B	自分の意見をしっかりと saying いたのでよかったです。質問がもう少しできるとよかったですと思いました。
No.2	B	質問をしていませんでした。
No.3	B	自分の意見はなかったけど、挙手ができていたのでBとしました。

○相互評価後のNo.4の自己評価

自己評価	自己評価の根拠
B	質問や応答をするのを忘れてしまいました。次は気を付けます。

No.4にフィードバック

○2回目の相互評価・自己評価 (No.4への評価)

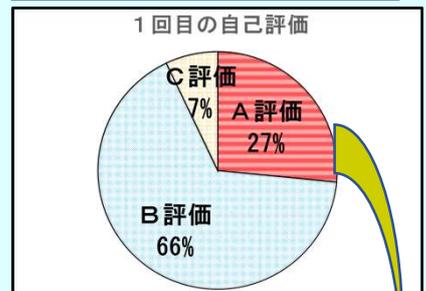
評価者	評価	評価の根拠
No.1	A	質問ができていて、応答もしていました。その他もよく聞いている様子が見られ、全体としてよかったです。
No.2	A	応答をし、意見や質問を発言していたからです。
No.3	A	挙手も応答も自分の意見や質問の発表ができていたからAです。

○相互評価後のNo.4の自己評価

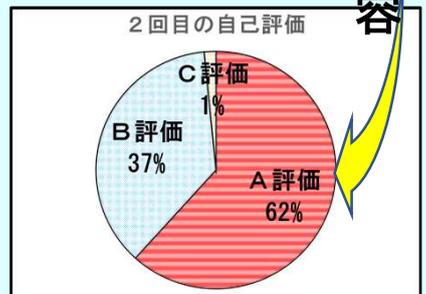
自己評価	自己評価の根拠
A	昨日よりも自分から進んで質問や応答もできたからAにしました。反省を生かすことができました。

No.4にフィードバック

自己評価の分析



A評価27%



A評価62%

変容

○振り返りシートの分析

相手の主張を正しく聞くことができたか	身に付けた聞くことの本領はどんな力か
はい 96%	正しく聞く態度が身に付いた 12%
いいえ 4%	相手の主張を考える力が身に付いた 30%
	相手に質問する力が身に付いた 43%



成果と課題

○生徒と作成したルーブリックで、生徒が形成的評価をすることは、聞くことの本領を高めることに有効である。
●必要感のある課題の提示の仕方やルーブリックの作成の仕方には更なる工夫が必要である。

提言

聞くことの学習では、生徒のパフォーマンスで形成的評価をした方が効果的である。